

平成18年度(2006年度)法曹実務専攻(法科大学院)

A 日程入学試験・出題意図

「小論文」

問題1

【出題意図】

法曹として、あるいは法律の知識を有する社会人として、様々な問題に立ち向かっていく際には、事柄に対して紋切り型の思考をもって臨むのではなく、柔軟かつ論理的な思考をもって臨まなければならない。解決策が見出されていないすべての問題は、どれほど語り尽くされているように見えたとしても、なお問題の本質あるいは当該問題を構成する問題群の相互関係が明らかになっていない可能性が高い。そうした問題に挑むためには、どこかで聞いたことのある議論ではなく、論理の力を頼りに、白紙から考えを進めていくことが不可欠といえる。

著者は、環境問題において、しばしば国家間の合意の妨げとなっている「国益」「国民の福祉」という紋切り型の主張が、現代においては決して国家の利益とならないことを、説得的に論証している。本問においては、環境問題という「よくある議論」に向かいやすい題材について、著者が、正に論理の力を頼りに進めている思考を、柔軟さと論理性をもって読み取り、その先に、やはり柔軟な心と論理的な頭脳をもって、自己の思考を展開してもらうことが期待されている。

【講評】

講評：警察機能の必要性、愛国心涵養の必要性等、経済の活性化以外の国家の役割に着目し、国家の必要性を論じる答案が多く、自由競争の激化それ自体の問題点、それに対し国家が果たしうる役割に言及するものは必ずしも多くなかった。主張内容が過度に抽象的であったり、一面的な主張にとどまるものも少なくなかった。

問題2

【出題意図】

問1

出題文のAからEのそれぞれは、主題である「嘘」が法の世界においてどのような効用があるのかを、個々のエピソードを取り上げて説明しようとしているが、エピソードの内容、エピソードにおける「嘘」の位置づけが異なっている。なかでも、Aは大岡政談という評伝を念頭に、歴史的事実とは必ずしも符合しないかもしれない大岡政談で用いられる「嘘」について、大岡政談の中で出てくる個別の例に言及することなく、全体として「事実を動かす」という点で一括し、「嘘」をそれと結びつけている。BからEは、それに比べて、個別具体的状況に言及しながら考察しようとしている。

そのような相違点が見られることを、異なる点は何かという比較作業を通じて発見させ、異なる点の属性を表現することで、異なる点を認識基準として用いることが可能かどうかをみようとするものである。そのため、比較として、Aとそれ以外、の二つの範疇についてその相手方に対して持つ特徴点を双方ともに指摘する必要がある。よって、解答ではAの特徴点でB乃至Eとは異なる特徴点を摘記する必要がある。

問2

Aを除くBからEは、具体的状況に言及しながら「嘘」の効用を考察しているが、それぞれで用いられる例での「嘘」の位置づけがいくつかの類型に分類されることを、分類基準を立論論旨の中から見つけ出すという「判別」作業を通じて、類型化の作業についての着眼点をみようとするものである。

問3

文章の中で批判の対象とされているが、その具体的内容が摘記されていないことがらを文章全体から推論し、それをある程度の文字数で表現する能力をみる。表現内容は法的知識を説明することを求めているのではなく、文章全体から合理的に推論し得る内容を、その論旨と根拠付けの双方を要素として説明することを期待している（ただし、「論旨と根拠を述べよ」とする出題は解答を誘導するため、避けた）。

問4

単なる要旨ではない。AからEの例を用いて「嘘」の効用を説明しようとしている本文の全体の論理構造に配慮しながら、著者の主張を端的に推論表現する能力をみる。

【講評】

問1

論旨の中で用いられている例が、過去の個別の事実に基づいたものが全体として評伝という間接的事実に基づいたものかを判断する、という趣旨に沿った解答がおおむね見られたが、「どのような点で異なるか」という解答で指摘すべき点に必ずしも明確に言及していないものもあった。

問2

出題は、問題文中で用いられている「嘘」の位置づけの類型を論理的に整理するという趣旨であるが、類型の論理的関係を考慮しない解答も見られた。出題者が想定した解答は一つではないが、そのいずれにも当てはまらない解答、両者を混同した解答は減点した。

問3

問題文中では言及されていない論旨を推論するという出題の趣旨を誤り問題文中から抜き書きする解答もあった。また、論旨を推論しようとする解答においても論旨を支える根拠を摘記していないものもあった。

問4

文字数の制約が緩やかであったので、多様な解答が見られた。出題は問題文の要旨・著者の主張を述べるものであるが、要旨をまとめるに止まったり、著者の主張を推論するだけの解答も見られた。問題文の前半と後半で論旨が異なることに着目する優れた解答も存した。